

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	筑波研究学園専門学校
設置者名	学校法人筑波研究学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	IT デジタル学科	夜・通信	180時間	160時間	
	SE スペシャリスト専攻科	夜・通信	120時間	80時間	
	自動車整備工学科	夜・通信	170時間	160時間	
	1級整備士専攻科	夜・通信	160時間	160時間	
	車体整備士専攻科	夜・通信	90時間	80時間	
	建築環境学科 建築設計デザインコース	夜・通信	165時間	160時間	
	建築環境学科 建築・土木施工コース	夜・通信	165時間	160時間	
	建築士専攻科	夜・通信	90時間	80時間	
商業実務専門課程	公務員受験対策科	夜・通信	105時間	80時間	
	医療情報学科	夜・通信	180時間	160時間	
	診療情報管理専攻科	夜・通信	90時間	80時間	
教育・社会福祉専門課程	こども未来学科	夜・通信	270時間	240時間	
	児童教育専攻科	夜・通信	90時間	80時間	

	こども未来学科 (通信教育課程)	夜・ 通信	17単位	6単位	
(備考) (1) 令和6年度入学生より「ITものづくり学科」を「ITデジタル学科」に、 「建築環境学科 建築土木施工コース」を「建築環境学科 建築・土木施工 コース」に名称変更。 「SEスペシャリスト専攻科」は令和6年度新設(完成年度を終えていない)。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ (<https://www.tist.ac.jp/infomation/>) で公開する。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	筑波研究学園専門学校
設置者名	学校法人筑波研究学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<https://www.tist.ac.jp/outline/>) で公開する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	ツジ電子株式会社 取締役会長	令和4年7月4日～ 令和6年7月3日	法人の健全経営に 関する助言
非常勤	株式会社増山栄建築 設計事務所 代表取締役	令和4年7月4日～ 令和6年7月3日	教育内容に関する 助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	筑波研究学園専門学校
設置者名	学校法人筑波研究学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程 本校の教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書(シラバス)の作成にも活かしている。 ・授業計画書の作成・公表時期 【前期科目】 1月 教育課程編成委員会 3月末までに作成 4月 前期授業開始前(前期オリエンテーション時) 公表 【後期科目】 8月 教育課程編成委員会 9月末までに作成 10月 後期授業開始前(後期オリエンテーション時) 公表 	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページ (https://www.tist.ac.jp/infomation/) で公開する。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学則第11条の規定に基づき定められた「科目の履修及び認定に関する細則」第3条に沿って成績評価、履修の認定を行っている。</p> <p>本校では、学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。</p> <p>成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階(A:80点以上、B:70点以上80点未満、C:60点以上70点未満、D:60点未満)で評価し、C評価以上を合格とする。</p> <p>卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績の分布状況の把握については、次のとおりGPAの指標を設定しおこなっている。GPAは、各科目の成績評価をGPに置き換え、計算式により算出している。

合否判定	総合点	成績評価	GP
合格	80～100点	A	3.5
	70～79点	B	2
	60～69点	C	1
不合格	60点未満	D	0

GPAの計算式

$$GPA = \frac{\text{科目1のGP} \times \text{単位数} + \text{科目2のGP} \times \text{単位数} + \dots}{\text{履修科目の単位数合計}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページ (<https://www.tist.ac.jp/files/pdf/seisekihyouka.pdf>) で公開する。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学が目指す人材像を学則第1条に「専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材」と定めている。この人材像に基づいた教育課程を履修し、学則第9条および第25条に定める、卒業基準（修業年限・取得単位数・授業時間数）を満たした者に校長は卒業証書を授与する。

筑波研究学園専門学校 学則

(目的)

第1条 本校は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第124条及び専修学校設置基準（昭和51年文部省令第2号）、並びに専修学校の専門課程の修了者に対する専門士及び高度専門士の称号の付与に関する規程（平成6年6月21日 文部省告示第84号）及び専修学校の専門課程における職業実践専門課程に関する規程（平成25年8月30日文部科学省告示第133号）に基づき、工業、商業実務、教育・社会福祉分野の専門教育を施すことにより、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材を育成し、もって地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。

(教育課程・授業時間)

第9条 本校の卒業までに必要とされる各学科の取得単位数並びに総時間数は、別表1-1から1-12のとおりとする。

(卒業の認定)

第25条 本校所定の課程を修了した者には、学習評価の上卒業証書を授与する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ (<https://www.tist.ac.jp/infomation/>) で公開する。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	筑波研究学園専門学校
設置者名	学校法人筑波研究学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tist.ac.jp/infomation/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tist.ac.jp/infomation/
財産目録	学校総務部に備え付け、閲覧及び配布可能。
事業報告書	学校総務部に備え付け、閲覧及び配布可能。
監事による監査報告（書）	学校総務部に備え付け、閲覧及び配布可能。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT デジタル学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	360 単位時間 /単位	1080 単位時間 /単位	360 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		96人	3人	6人の内数	6人の内数	12人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。
学修支援等
（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
66人 (100%)	2人 (3.0%)	62人 (94.0%)	2人 (3.0%)
（主な就職、業界等） 株式会社LIXIL、名村情報システム株式会社、株式会社マイクロネット、 カスタムシステム株式会社、エス・イー・シーエレベーター株式会社 他			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、企業研究会の実施 他</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、IT パスポート試験、第2種電気工事士、CAD利用技術者試験2級 他</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>令和6年度入学生より「ITものづくり学科」を「ITデジタル学科」に名称変更。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
125人	10人	8.0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振、進路変更(進学)、経済的理由</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	SEスペシャリスト専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	810 単位時間/単位	— 単位時間 /単位	525 単位時間 /単位	285 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人	2人	0人	6人の内数	6人の内数	12人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 （%）	人 （%）	人 （%）	人 （%）
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 学生向け就職ガイダンス、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策 他			

(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者試験 他
(備考) (任意記載事項) ・令和5年度から学生募集を開始し、1年生が在籍 ・完成年度を終えていないため、卒業生はなし

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1965 単位時間/単位	405 単位時間/ 単位	350 単位時間/ 単位	1210 単位時間/ 単位	— 単位時間/ 単位	— 単位時間/ 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100人	78人	22人	8人の内数	1人の内数	9人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考査点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	10人 (35.7%)	18人 (64.3%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等) 茨城トヨペット株式会社、株式会社スズキ自販茨城、株式会社ナオイオート、株式会社ホンダ茨城南 他</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、進学体験会、進学在校生による講話 他</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>2級ガソリン自動車整備士、2級ジーゼル自動車整備士、中古自動車査定士 他</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	3人	5.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振、進路変更(就職)、経済的理由</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	1級整備士専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2200 単位時間/単位	300 単位時間 /単位	60 単位時間 /単位	1840 単位時間/ 単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	16人	0人	8人の内数	1人の内数	9人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 茨城トヨペット株式会社、茨城ダイハツ販売株式会社、株式会社北関東マツダ、株式会社スズキ自販茨城 他</p>			
<p>（就職指導内容） 学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、進学体験会、進学在校生による講話 他</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 1級小型自動車整備士、職業訓練指導員 他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	車体整備士専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	965 単位時間/単位	75 単位時間 /単位	210 単位時間 /単位	680 単位時間/ 単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人	0人	0人	8人の内数	1人の内数	9人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 株式会社石塚自動車工業所、茨城ヤナセ株式会社</p>			
<p>（就職指導内容） 学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、進学体験会、進学在校生による講話 他</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 自動車車体整備士、2級二輪自動車整備士 他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築環境学科 建築設計デザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	615 単位時間 /単位	885 単位時間 /単位	255 単位時間 /単位	45 単位時間 /単位	1 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		47人	0人	6人の内数	6人の内数	12人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	8人 (34.8%)	15人 (65.2%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 谷原建設株式会社、株式会社CTIリード、トヨタホーム茨城株式会社、大昭建設株式会社 他</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、建築職能論（職能体験講話） 他</p>
<p>(主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>二級建築士、2級建築施工管理技士補、2級土木施工管理技士補、2級造園施工管理技士補、建築CAD2級、建築CAD3級、建築経理事務士3級 他</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55人	6人	10.9%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振、進路変更（就職）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築環境学科 建築・土木施工コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	495 単位時間 /単位	885 単位時間 /単位	375 単位時間 /単位	45 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		21人	0人	6人の内数	6人の内数	12人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>	
学修支援等	
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 昭和建設株式会社、斎藤商事株式会社、大東建設株式会社、株木建設株式会社 他</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、建築職能論（職能体験講話） 他</p>
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>二級建築士、二級建築施工管理技士補、二級土木施工管理技士補、二級造園施工管理技士補、建築CAD2級、建築CAD3級、建築経理事務士3級 他</p>
<p>(備考)（任意記載事項）</p> <p>令和6年度入学生より「建築環境学科 建築土木施工コース」を「建築環境学科 建築・土木施工コース」に名称変更。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	6人	30.0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振、進路変更</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築士専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	840 単位時間/単位	525 単位時間 /単位	135 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人	8人	0人	6人の内数	6人の内数	12人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。</p> <p>卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有</p> <p>個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>東建コーポレーション株式会社、株式会社アキュラホーム、日本住宅株式会社、住友不動産株式会社、株式会社木下工務店、株木建設株式会社 他</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策 他</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 二級建築士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	公務員受験対策科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	840 単位時間/単位	60 単位時間 /単位	780 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		10人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	2人 (14.3%)	12人 (85.7%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 茨城県職員、茨城県警察本部、防衛省、つくばみらい市役所、法務省 東京矯正管区 他</p>			
<p>（就職指導内容） 学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、 他</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 公務員 1 次試験、公務員 2 次試験 他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	医療情報学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1960 単位時間/単位	315 単位時間 /単位	1485 単位時間 /単位	160 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100人	58人	0人	3人の内数	7人の内数	10人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	5人 (25.0%)	15人 (75.0%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院、医療法人健佑会 いはら病院、医療法人社団桜水会 筑波病院、医療法人誠潤会 水戸病院、公益社団 法人取手市医師会 取手北相馬保健医療センター医師会病院 他</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策 他</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>診療報酬請求事務能力認定試験、医療事務技能審査試験、医師事務作業補助技能認定試験、医療秘書技能検定 2 級、医事コンピュータ技能検定試験 2 級、電子カルテ技能検定試験、秘書技能検定 2 級</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48人	1人	2.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更 (就職)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	診療情報管理専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	980 単位時間/単位	150 単位時間 /単位	750 単位時間 /単位	80 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		5人	0人	3人の内数	7人の内数	10人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	10人 (100%)	0人 (%)
<p>（主な就職、業界等） 公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院、株式会社JA茨城スタッフサービス 茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院、日本赤十字社茨城県支部 古河赤十字病院、医療法人耕平会 木戸医院 他</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策 他</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>診療情報管理士認定試験</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	こども未来学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2940 単位時間/単位	600 単位時間 /単位	1870 単位時間 /単位	440 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		237人	1人	3人の内数	7人の内数	10人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。
学修支援等
（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
93人 (100%)	30人 (32.3%)	61人 (65.6%)	2人 (2.1%)
（主な就職、業界等） 幼稚園、保育園、認定こども園、児童養護施設、知的障害児施設、介護福祉施設 等			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、茨城県民間保育協議会就職セミナー 他</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>幼稚園教諭2種、保育士、社会福祉主事任用資格、介護職員初任者研修、幼児体育指導者検定2級、幼児体育指導者検定1級、リトミック指導者2級</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
267人	18人	6.7%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振、進路変更(就職)、病気療養、経済的理由</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	児童教育専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	995 単位時間/単位	750 単位時間 /単位	120 単位時間 /単位	125 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		28人	0人	3人の内数	7人の内数	10人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、習熟度別授業の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	0人 (0%)	26人 (92.9%)	2人 (7.1%)
<p>（主な就職、業界等） 小学校、幼稚園、保育園、認定こども園、児童養護施設、知的障害児施設、介護福祉施設、茨城県庁 他</p>			

<p>(就職指導内容)</p> <p>学生向け就職ガイダンス、保護者対象就職相談会、卒業生講話、筆記試験対策、就職面接対策、茨城県民間保育協議会就職セミナー 他</p>
<p>主な学修成果（資格・検定等）</p> <p>幼稚園教諭1種、小学校教諭1種、養護教諭1種、児童指導員任用資格</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談や保護者を交えた三者面談等を実施する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・福祉		教育・社会福祉 専門課程	こども未来学科 (通信教育課程)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	通信	132 単位時間/単位	40 単位	76 単位	5 単位	— 単位	1 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
102人		18人	0人	3人の内数	7人の内数	10人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程を編成するに当たっては、学則第9条に従い教育課程編成委員会を開催している。得られた意見を参考に、より実践的な職業教育の視点に立った見直しをおこない、授業計画書（シラバス）の作成にも活かしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 学習結果の成績評価を受けるためには、当該授業科目に対して、3分の2以上の出席を必要としている。成績は、期末考查点、出席点、課題点、平常点の総合点により行い4段階（A：80点以上、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満）で評価し、C評価以上を合格とする。 卒業研究、卒業制作及び臨地実習等の授業科目の評価は、報告書及び発表内容等を総合的に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業および進級の認定にあたっては、各学科の教育課程を履修し、学年毎に必要な取得単位数並びに時間数を満たした者に、校長が卒業・進級を認める。</p>
学修支援等
<p>（概要）クラス担任制：有 個別相談・指導等の対応： 個人面談・三者面談の実施。補講・補習、特別カリキュラムの実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			

(就職指導内容)
(主な学修成果(資格・検定等)) 保育士
(備考) (任意記載事項) 社会人向け通信教育課程

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	2人	20%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更(就職)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席した学生に対する連絡、連続して欠席している学生については、早い時期に個人面談を実施する		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
IT デジタル学科	100,000 円	600,000 円	320,000 円	施設設備費・実験実習費
SE スペシャリスト専攻科	100,000 円	600,000 円	320,000 円	施設設備費・実験実習費
自動車整備工学科	100,000 円	600,000 円	520,000 円	施設設備費・実験実習費
1 級整備士専攻科	100,000 円	600,000 円	590,000 円	施設設備費・実験実習費
車体整備士専攻科	100,000 円	600,000 円	590,000 円	施設設備費・実験実習費
建築環境学科	100,000 円	600,000 円	410,000 円	施設設備費・実験実習費
建築士専攻科	100,000 円	600,000 円	410,000 円	施設設備費・実験実習費
公務員受験対策科	100,000 円	600,000 円	260,000 円	施設設備費・実験実習費
医療情報学科	100,000 円	600,000 円	260,000 円	施設設備費・実験実習費
診療情報管理専攻科	100,000 円	600,000 円	260,000 円	施設設備費・実験実習費
こども未来学科	100,000 円	600,000 円	291,000 円	施設設備費・実験実習費 短大併修費
児童教育専攻科	100,000 円	600,000 円	90,000 円	施設設備費・実験実習費
こども未来学科 (通信教育課程)	30,000 円	130,000 円	60,000 円	学習管理費等
修学支援 (任意記載事項)				
T I S T 奨学金：入学後の学業、人物ともに優秀な者に対し、月額 20,000 円を支給 修学金支援制度：在学中に保護者が死亡し、経済的に困難な者に対し、月額 30,000 円を支給				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (https://www.tist.ac.jp/infomation/) で公開する。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者評価は、卒業生、保護者、産業界有識者及び教育・学識経験者により構成する学校関係者評価委員会により行う。同委員会は、筑波研究学園専門学校が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて行った自己評価をもとに学校評価を行い、その評価結果を学校の教育活動の向上および学校運営の改善に生かすことを目的とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校法人 霞ヶ浦高等学校 進路指導担当	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	教育関係
一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会 (IRDA) ペンギンシステム株式会社代表取締役社長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	業界団体 企業関係者
土浦商工会議所 総務課長 補佐	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	業界団体
茨城県自動車整備振興会 土浦支所 教育課 課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	業界団体
一般社団法人茨城県建築士事務所協会常務理事 株式会社河野正博建築設計事務所代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	業界団体 企業関係者
筑波メディカルセンター病院 事務部外来一課課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	企業関係者
社会福祉法人えがお 理事 統括部長 兼 法人事務局長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	企業関係者
五籃会会長 (保護者会代表)	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	保護者
輝峰同窓会 (卒業生代表)	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (https://www.tist.ac.jp/infomation/) で公開する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (https://www.tist.ac.jp/) で公開する。
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H108320300049
学校名 (〇〇大学 等)	筑波研究学園専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人筑波研究学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		86人	79人	88人
内訳	第Ⅰ区分	56人	50人	
	第Ⅱ区分	20人	19人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				88人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	一人	0人	一人
計	一人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	一人	一人	一人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	一人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。